

# 日本株発掘ファンド 米ドル型

&lt;3261&gt;

追加型投信／国内／株式  
日経新聞掲載名：日本株発掘米

第34期	2023年10月23日決算
第35期	2024年1月22日決算

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の株式に投資するとともに、米ドルへの投資効果の享受をめざすことにより、信託財産の中長期的な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第35期末	基準価額	12,943円
	純資産総額	1,010百万円
第34期～第35期	騰落率	22.5%
	分配金合計	1,250円


(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

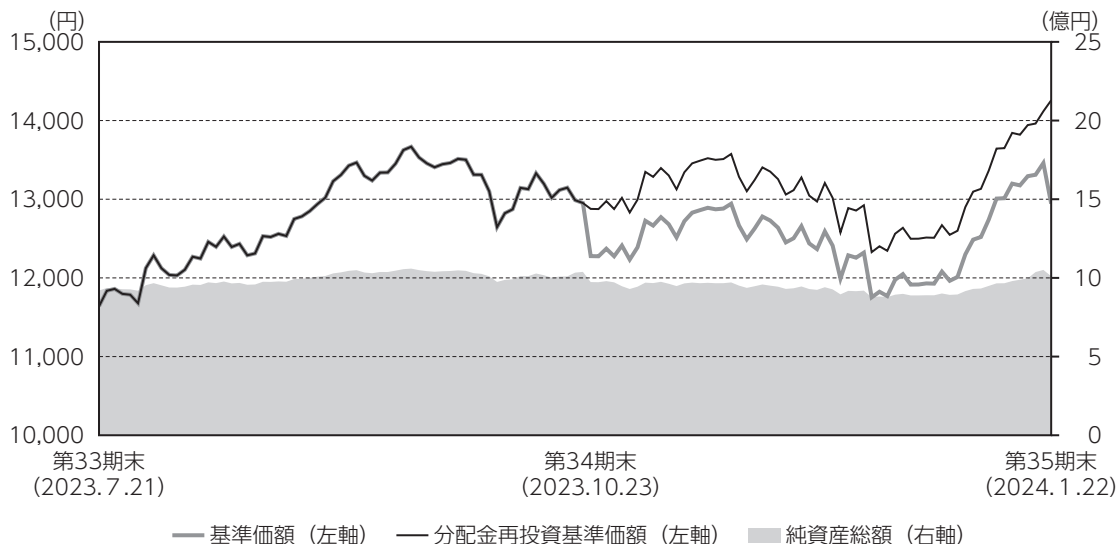
◇TKU0326120240122◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法  
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

### 基準価額・騰落率

第34期首：11,639円

第35期末：12,943円（既払分配金1,250円）

騰落率：22.5%（分配金再投資ベース）

### 基準価額の主な変動要因

「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」の受益証券を通じてわが国の株式に投資し、実質的に円売り／米ドル買いとなる為替取引を行った結果、国内株式市況が上昇したことで米ドルが対円で上昇（円安）したことにより、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第34期～第35期 (2023.7.22～2024.1.22)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	102円	0.806%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は12,664円です。
(投 信 会 社)	(49)	(0.389)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(49)	(0.389)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.028)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	13	0.105	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(13)	(0.105)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	3	0.020	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(2)	(0.018)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	118	0.931	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

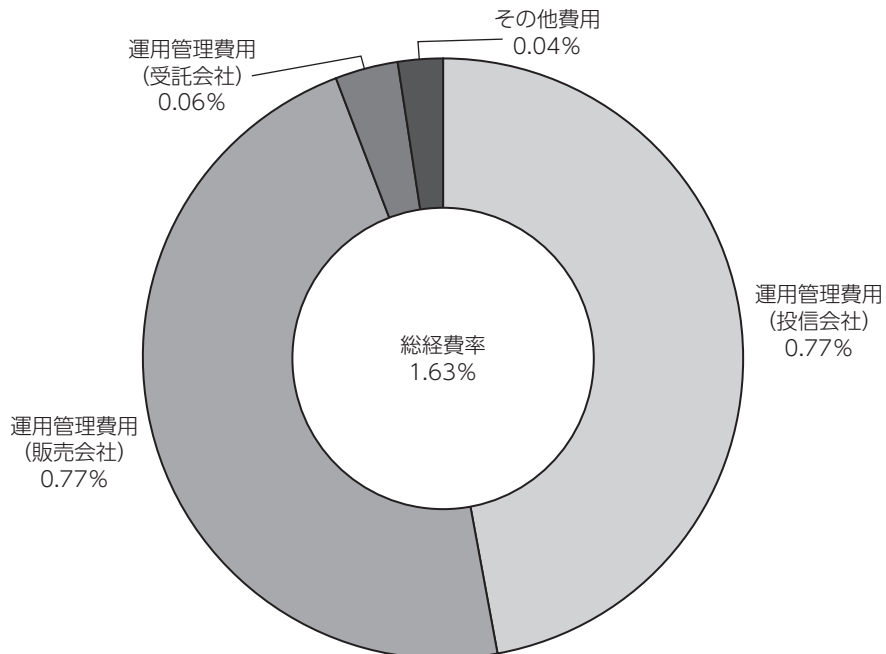
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

## ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.63%です。

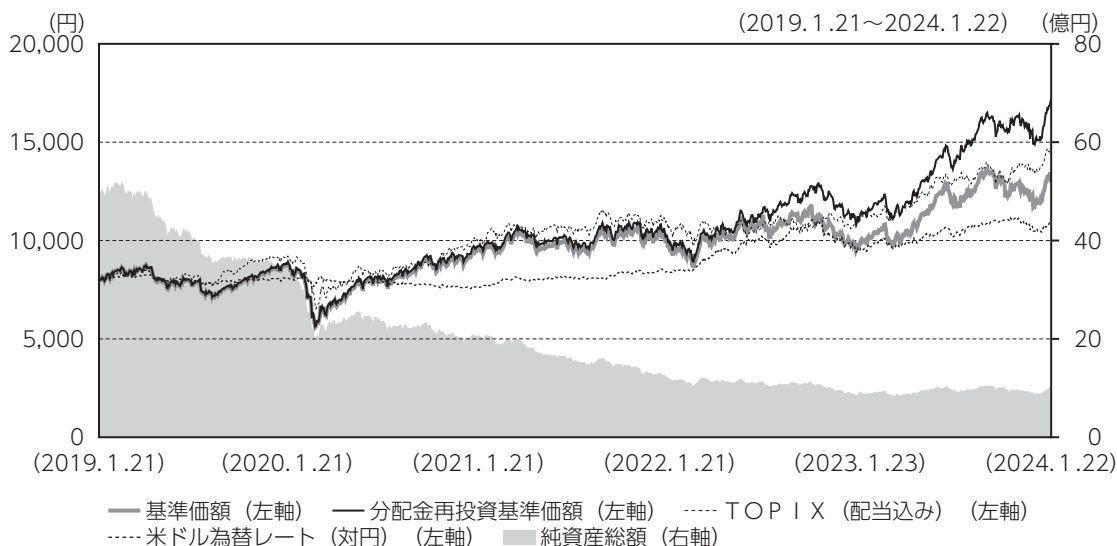


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2019年1月21日の基準価額をもとに指数化したものです。

\*参考指数はTOPIX (配当込み) および米ドル為替レート (対円) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2019年1月21日 期初	2020年1月21日 決算日	2021年1月21日 決算日	2022年1月21日 決算日	2023年1月23日 決算日	2024年1月22日 決算日
基準価額 (円)	8,069	8,754	9,548	9,584	9,885	12,943
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	70	80	90	1,160	1,920
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	9.4	10.2	1.3	14.4	52.7
TOPIX (配当込み) 騰落率 (%)	—	13.6	9.9	5.8	3.7	34.1
米ドル為替レート (対円) 騰落率 (%)	—	0.5	△6.0	9.9	13.6	14.6
純資産総額 (百万円)	5,024	3,484	2,069	1,184	921	1,010

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注3) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は最近で知り得るデータを使用しております。

配当込みTOPIX (本書類における「TOPIX (配当込み)」をいう。)の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有する。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負わない。当ファンドは、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負わない。

**投資環境について**

(2023.7.22~2024.1.22)

**国内株式市況**

国内株式市況は上昇しました。

国内株式市況は、当作成期首より、日米の金融政策イベントを無難に通過したことや、底堅い企業決算などを背景に上昇しました。2023年8月に入って、米国の格付会社が米国国債を格下げしたことや、米国金利上昇への懸念から下落する局面もありましたが、8月半ばに発表された2023年4-6月期GDP（国内総生産）成長率が予想を上回る高い伸びとなったことなどが好感され、9月中旬にかけて上昇しました。9月下旬以降は、米国における長期金利の上昇や景気の先行き不透明感、パレスチナ情勢の悪化などが懸念されて反落しました。11月以降は、欧米におけるインフレ率の鈍化や金利の低下を受けて海外株式市場が大幅に上昇したこと、決算発表で好調な企業業績が確認されたこと、株主還元拡充の発表が相次いだことなどが好感され、上昇して当作成期末を迎えました。

**為替相場**

米ドル為替相場は、対円で上昇しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、日銀の政策運営の柔軟化決定を受けて下落（円高）しました。2023年8月以降は、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、米ドルは対円で上昇しました。11月に入ると、米国金利の大幅な低下を背景に日米金利差の縮小が意識され、米ドルは対円で下落しました。しかし2024年1月に入ると、米国の早期利下げ観測後退による米国金利の上昇と日銀の金融政策の修正に対する期待感の縮小による国内金利の低下を受け、米ドルは対円で反転上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。また、ファンドの運用方針にのっとり、実質的に信託財産の純資産総額と同程度の為替取引（円売り／米ドル買い）を行います。

### ■ジャパン・エクセレント・マザーファンド

2023年に入って世界的な株高傾向が続いています。日本株の上昇率は主要株価指数の中でも良好です。一方で、好調な株式市場とは対照的に先行きの景気は視界不良です。足元の米国の景気は想定以上に堅調ですが、すべての経済指標が明るいわけではありません。ISM（米国供給管理協会）製造業指数は景気拡大・後退の分岐点とされる50%を下回る状況が継続し、コンファレンスボード（全米産業審議会）が算出する景気先行指数も2022年比ベースでマイナス傾向を示しています。また、債券市場においても景気後退を示すシグナルが出ています。米国2年債利回りと米国10年債利回りの格差はマイナス1%程度の水準で（長短利回りの逆転：逆イールド）、これほど大きな逆イールドは1981年以来的のことです。逆イールドの発生は景気後退の予兆とされており、先行きの景気後退リスクが警戒されます。

景気情勢と株価とのギャップの背景には株式市場が“マイルド”な景気後退を期待していることが挙げられます。景気後退に陥ったとしても、底が浅いマイルドなものにとどまるとの見立てです。一方で、FRB（米国連邦準備制度理事会）はインフレ率に対して警戒姿勢を維持していることには留意する必要がありますと考えています。マイルドな景気後退をメインシナリオとしつつも、株式市場における景気認識の変化には注意したいと思います。

こうした相場見通しの下、注目したいのは企業の決算発表です。実際の業績に加えて、企業側から発せられる事業環境や業績見通しがポイントになると考えています。

運用方針といたしましては、景気や株式市場の方向感がつかみにくい中でバランスの取れたポートフォリオを構築する考えです。個別銘柄の選別にあたりましては、中長期的な実力と株価との乖離が大きい企業、持続的成長に向けた事業構造改革の進展や新規事業の成長に変化が見られる企業、株主還元策の向上に取り組む企業などに着目して調査を進めてまいります。

## ポートフォリオについて

(2023.7.22~2024.1.22)

### ■当ファンド

「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」の受益証券へ投資を行いました。また、ファンドの運用方針にのっとり、通貨オプションを利用し実質的に信託財産の純資産総額と同程度の為替取引（円売り／米ドル買い）を行いました。

### ■ジャパン・エクセレント・マザーファンド

規律ある経営者に経営され、良質な事業を営む企業を主な対象として、調査に基づき推定されるその企業の本来の価値に比して株価が割安な状態にある銘柄を組み入れるという基本方針に沿って運用を行いました。

株式等の組入比率は、おおむね高位で推移させました。

業種別では、個別銘柄の業績動向や株価バリュエーション、物色動向等を勘案してポートフォリオの運用を行った結果、電気・ガス業セクター、サービス業セクター、電気機器セクターなどのウエートを引き上げ、化学セクター、機械セクター、輸送用機器セクターなどのウエートを引き下げました。

\*マザーファンドのベンチマークは以下の通りです。

組入ファンド	ベンチマーク
ジャパン・エクセレント・マザーファンド	TOPIX (配当込み)

## ベンチマークとの差異について

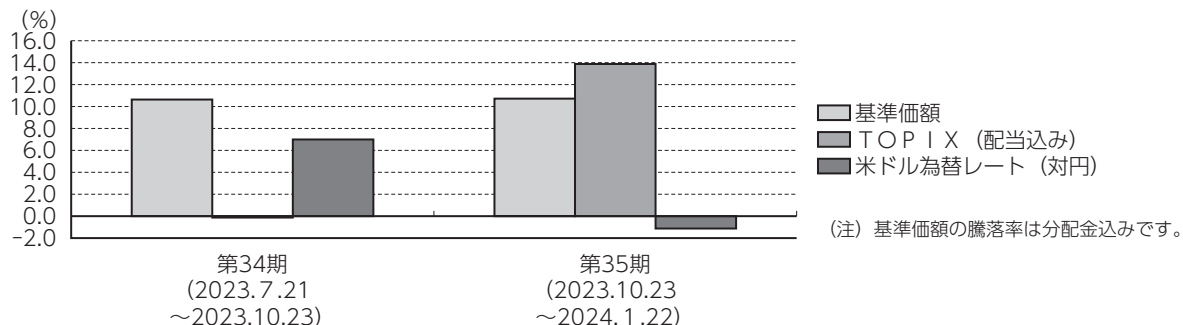
当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」のポートフォリオでは、三菱重工や日立製作所などの株価上昇がファンドの運用成績にプラス寄与しました。三菱重工は防衛予算の拡大を背景とした防衛受注の大幅増加、火力発電を中心としたエネルギー関連事業の収益性改善、航空機関連事業の回復、円安などから成長期待が高まったことで大きく上昇しました。日立製作所は鉄道事業、送電事業、ITサービス事業の好調などを背景に会社計画が増額修正されたことなどが好感されました。このほか、好決算を発表した東京エレクトロンなどもプラス寄与しました。

一方で、運用成績に対してマイナス要因となったのは、ユニチャーム、ポーラ・オルビスHDなどです。ユニチャームは中国における流通在庫の調整などから冴えない業績となったことなどが嫌気されました。ポーラ・オルビスHDは主力ブランドが低調だったことなどから下落しました。このほか、ABCマートなどがマイナス要因となりました。



以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	第34期	第35期
	2023年7月22日 ~2023年10月23日	2023年10月24日 ~2024年1月22日
<b>当期分配金(税込み)(円)</b>	<b>600</b>	<b>650</b>
対基準価額比率(%)	4.66	4.78
当期の収益(円)	600	650
当期の収益以外(円)	-	-
翌期繰越分配対象額(円)	4,850	5,459

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計画上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

### ■収益分配金の計算過程(1万口当り)

項目	第34期	第35期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 107.62円	✓ 12.38円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,041.32	✓ 1,247.18
(c) 収益調整金	2,347.15	2,510.52
(d) 分配準備積立金	1,953.92	2,339.51
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	5,450.02	6,109.61
(f) 分配金	600.00	650.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	4,850.02	5,459.61

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」の受益証券へ投資を行います。また、ファンドの運用方針にのっとり、実質的に信託財産の純資産総額と同程度の為替取引（円売り／米ドル買い）を行います。

### ■ジャパン・エクセレント・マザーファンド

日本株の快走が続いています。2023年の日本株はT O P I X（配当込みベース）で+28.3%の上昇となり、世界の主要株価指数の中でも良好な成績となりました。2023年の日本株上昇の原動力となった3つの期待、日本経済の脱デフレ期待、東京証券取引所の低P B R（株価純資産倍率）是正要請による企業行動の変化への期待、新N I S A（少額投資非課税制度）導入による個人マネー流入期待に加え、地政学リスク回避の投資マネーが2024年年初の日本株急上昇をもたらしています。

一方で、こうした株高の勢いにより株価指標面で見えた日本株の割安感は薄れてきました。米国株と比べると依然として割安感がありますが、日本株の過去平均と比べると過度な割安さは解消されたと言えます。

日本株が市場全体として一段高となるには追加的な期待感の高まりによる株価指標の拡大もしくは、業績見通しの上方修正が必要です。日本企業の業績を展望すると、2024年度は2023年度見込み比+10%前後の利益成長が予想されています（T O P I Xベース）。一方で、中国景気の停滞、欧米景気の減速、国内外の政治情勢、不安定な為替動向など企業を取り巻く不透明要因を勘案すると、現時点でさらなる上方修正を見込むのは難しい状況です。特に日本株は世界の景気敏感株と位置づけられており、海外の景気動向は日本企業の業績や株価に大きな影響を与えるだけに留意が必要です。以上のことから、今後は個別企業を精査した選別投資の有効性が高まると考えます。

運用方針といたしましては、景気や株式市場の方向感がつかみにくい中でバランスの取れたポートフォリオを構築する方針です。個別銘柄の選別にあたりましては、業績と株価との乖離が大きい銘柄、持続的成長に向けた事業構造改革の進展や新規事業の成長に変化が見られる銘柄、株主還元策の向上に取り組む銘柄などに着目して調査を進めてまいります。

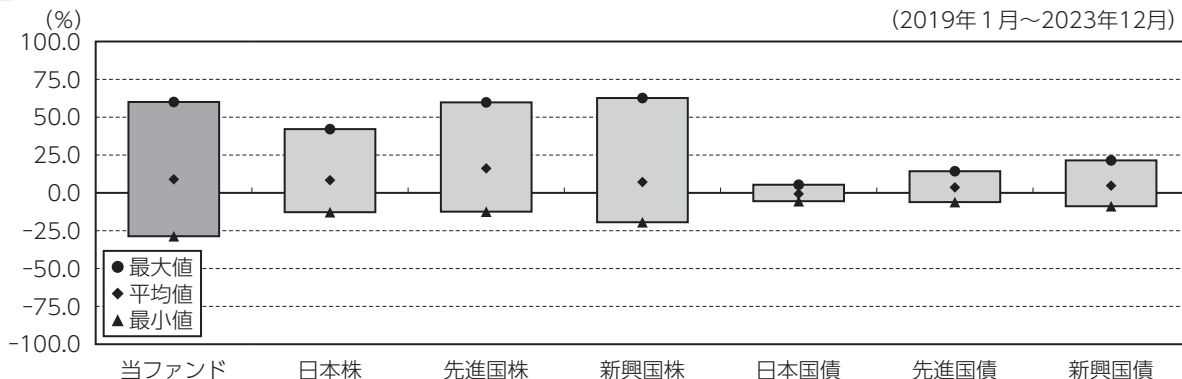


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2015年6月30日～2025年1月21日	
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いません。	
主要投資対象	ベビーファンド	1. ジャパン・エクセレント・マザーファンドの受益証券 2. 通貨オプション取引（選択権付為替予約取引）等の通貨にかかるデリバティブ取引
	ジャパン・エクセレント・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式（上場予定を含みます。以下同じ。）
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に投資するとともに、為替取引（※）を利用し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いません。</p> <p>※「為替取引」とは、通貨オプション取引等の通貨にかかるデリバティブ取引および外国為替予約取引をいいます。以下同じ。</p> <p>②原則として、実質的に円売り／米ドル買いとなる為替取引を行なうことで、米ドルへの投資効果の享受をめざします。</p> <p>③株式の実質的な組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。そのため、株価指数先物取引を活用する場合があります。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、中長期的にベンチマーク（東証株価指数（TOPIX）：配当込み）を上回る投資成果をめざします。</p> <p>②銘柄の選定においては、主に業績動向、株価のバリュエーション等に着目します。</p> <p>③個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮し、ポートフォリオを構築します。</p> <p>④株式の組入比率は、通常の状態でも信託財産の純資産総額の80％程度以上とすることを基本とします。</p> <p>⑤運用の効率化を図るため、わが国の株価指数先物取引等を利用することがあります。このため、株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。</p> <p>⑥株式以外の資産への投資は、原則として、信託財産総額の50％以下とします。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、下記イ、およびロ、に基づき分配金額を決定します。ただし、第1計算期末には、収益の分配は行いません。</p> <p>イ、各計算期末における収益分配前の基準価額（1万口当り。既払分配金を加算しません。）が10,000円超の場合、10,000円を超える額をめぐりに分配金額を決定します。なお、計算期末に向けて基準価額が大きく上昇した場合など基準価額の動向等によっては、実際の分配額がこれと異なる場合があります。</p> <p>ロ、各計算期末における収益分配前の基準価額が10,000円以下の場合、配当等収益から分配します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	60.0	42.1	59.8	62.7	5.4	14.3	21.5
平均値	9.0	8.4	16.2	7.2	△0.7	3.6	4.8
最小値	△28.7	△12.8	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性、正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



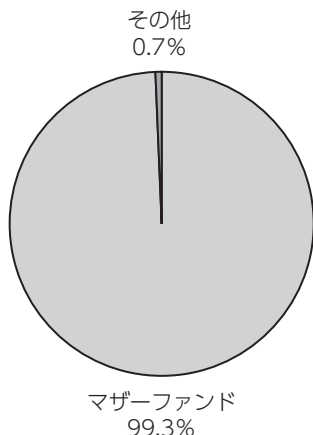
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

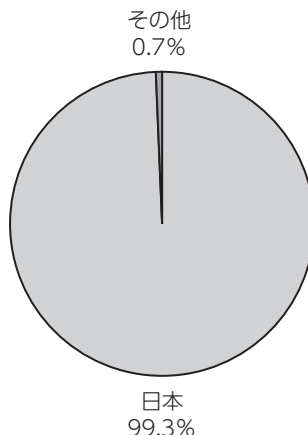
### 組入ファンド等

	比率
ジャパン・エクセレント・マザーファンド	99.3%
その他	0.7%

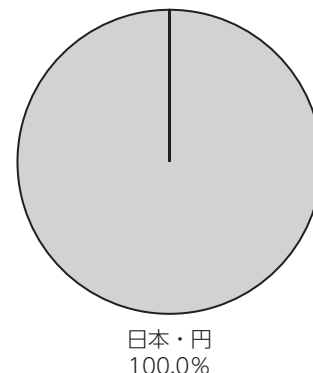
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2024年1月22日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注4) 通貨オプションの組み合わせにより、実質的な米ドル買い/円売りの建玉を、原則として、純資産総額と同程度としています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項 目	第34期末	第35期末
	2023年10月23日	2024年1月22日
純資産総額	973,422,550円	1,010,818,644円
受益権総口数	792,870,409口	780,948,282口
1万口当り基準価額	12,277円	12,943円

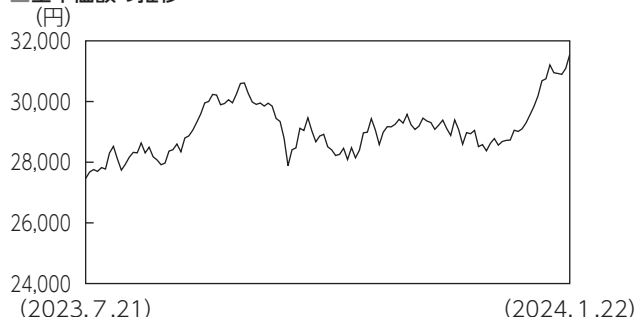
\* 当作成期間（第34期～第35期）中における追加設定元本額は98,836,971円、同解約元本額は108,257,918円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

## ◆ ジャパン・エクセレント・マザーファンド（作成対象期間 2023年7月22日～2024年1月22日）

## ■ 基準価額の推移



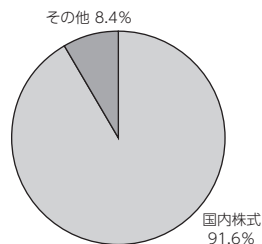
## ■ 1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		31円
(株式)		(31)
(先物・オプション)		(0)
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	31

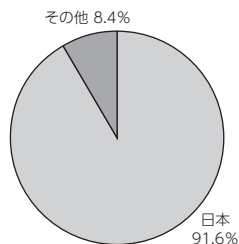
## ■ 組入上位銘柄

銘柄名	比率
ソニーグループ	5.7%
日立	5.3%
三菱UFJフィナンシャルG	4.6%
トヨタ自動車	4.0%
日本電信電話	4.0%
三菱商事	3.9%
東京エレクトロン	3.3%
村田製作所	3.2%
小松製作所	3.2%
鹿島建設	3.2%
組入銘柄数	62銘柄

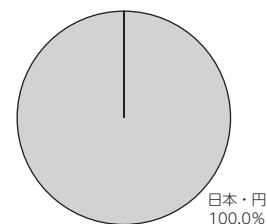
## ■ 資産別配分



## ■ 国別配分



## ■ 通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

# Memo

大和アセットマネジメント

---

Daiwa Asset Management